

天満神社

天満神社は、知恵の神である菅原道真（別名天神様）を祀る神社です。天満神社の主な建築は1733年に、この地域のちりめん産業が始まってからわずか10年後に、ちりめん街道を見下ろす天神山に建てられました。また同じ丘の上には、平安時代（794年～1185年）に地元の農業の神である稚屋姫命を祀るために建てられた小さな神社の阿賀野神社があります。神社の境内には、鎌倉時代（1185年～1333年）に作られた八角形の石灯籠もあります。

天満神社の本殿は、以前は崖の端に非常に近く、丘をあがる石段を抜けたすぐそばにありました。しかし1927年大規模な地震の後で、本殿の場所は現在の拝殿の後ろになり、より安全な場所に移されました。元々狭い土地に建設された独特の建築様式は今でも残っています。そして通常の神社では、優雅な唐破風の屋根は神社の本殿の正面から突き出ているのですが、天満神社の本殿の唐破風破風は上に押し上げられた形になっています。

現在、石段の頂上にある天満神社には、年に一度加悦谷祭のために持ち出される神輿が保管されています。この巨大な神輿は屈強な男たちが背負っており、町の通りをパレードするために、137段ある急な階段を上下に動きながら運ばれていきます。